キャラクター名
冬樹　ハル（ふゆき　はる）

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	レネゲイドビーイングA	カヴァー	フリーター
オプショナル		年齢	20代に見える	性別	男
覚醒	償い	衝動	破壊	初期侵食率	44 %
出自	転生体	経験	煩悶	邂逅	忘却

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	1	0		4	11
感覚	0	0	1			1
精神	0	0	1			1
社会	2	0	0			2

HP	43
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	8		射撃	1		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

コネ：噂好きの友人	
その他：自動巡回ソフト	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
ロイス：実験体(ロストナンバー)	P	N		
記憶の中の誰か	P　遺志	N 不快感		
”マルノ”	P　信頼	N　嫉妬		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	ー	常時	至近	自身	自動	ＲＢ	
効果：衝動判定Ｄ＋ＬＶ・侵食率の影響なし								
フルパワーアタック	3	4	セットアップ	至近	自身	自動	80↑	
効果：攻+[LV*5]								
オリジン：ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	ＲＢ	
効果：ｼｰﾝ間Ｅ判定達成値+ＬＶ								
一角鬼	1	3	マイナー	至近	自身	自動	ー	
効果：ｼｰﾝ間素手：〈白兵〉命0攻+[LV+5]G2射5m								
剛身獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	ピュア	
効果：ｼｰﾝ間攻+[LV*2]装+[LV*3]								
完全獣化	1	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：ｼｰﾝ【肉体】判D+[LV+2]個　装備不可								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：戦闘移動 離脱可 封鎖抜け可 1シーン[LV]回								
CR:キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：C値-LV								
獣の力	1	2	メジャー	武器	単体	対決	-	
効果：白兵攻+[LV*2]								
フィジカルエンハンス	2	3	メジャ/リア	-	-	-	-	
効果：C値-1　1ｼﾅLv回								
獣の直感	★							
効果：								
鋭敏感覚	★							
効果：								
猫の瞳	★							
効果：								

年齢不詳のフリーター。男性。普段はふらふらしたり、バイトしたり、同居人の手伝いをしている。
同居人は【"マルノ"】と名乗る女探偵でオーヴァード。本名さえ不明で謎が多いが、ハルを拾ってくれた恩人であるし、ハル自身そこまで気にしていない。マルノもハルのことを詮索することはない。まぁ詮索はしなくても事情はハルより知っていそうである。

実はここ数年くらいの記憶しかない。…はずなのだが、"自分ではない誰か"の記憶がある。それはおそらく男性のものであるがはっきりしていない。ただ、強い意志を時折感じる。

彼の覚えてる最初の記憶は"償え"という意志とそれに伴うオーヴァードへの覚醒。どこかの研究施設と思われる場所で目覚めたが、周りは瓦礫と赤黒い跡ばかりであった。何が起きたのか分からずボーッとしていると雪が降り始めた。そして、そこにマルノが現れたのだった。
「…君はまるで捨て犬みたいだな。それとも迷子の犬か。」
と言われたことは今でもはっきり覚えている。

それから、ハルはマルノに引き取られ、名前と居場所を与えられた。"冬樹 ハル"という名前は春が近付いてる冬に出会ったから、とマルノは言っている。狭い家に二人暮らししているが、二人の間に恋愛感情なるものは目覚めそうにない。ハルは仕事中はマルノを上司として扱い、オフでは面倒な姉のように思っている。マルノの腕がいいことも、たまに怪しげな仕事をしてることも知っている。

「ハル、コーヒーを淹れてくれないか？」
「いいんですけど、この資料まとめてからで。あと少しで終わるんで。」
「今すぐ、だ。」
「あ、はい。」

余談。マルノはコーヒー好きでコーヒーがないと仕事が始められない。また、この家の家事全般はハルが任されている。ハルが来る前はどうしていたんだ、この